

## 大阪大学 SF オフィース

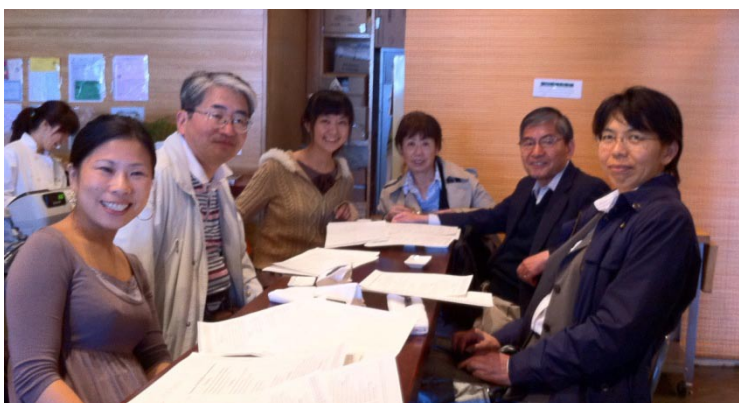
レーザー研の皆さん

6月13日、月曜の朝ですね。おはようございます。

今、日曜の午前11時です。13時にLLNLが予約したリムジンが迎えに来ます。明日から3日間、The 2<sup>nd</sup> Science on NIF Committeeです。出かける前は体調が優れず（気分も優れず）、心配でしたが、サンフランシスコ(SF)に着いて米国の自由の空気を胸一杯に吸って、強い日差しに照らされた乾燥した町を歩く内に、とても元気になりました。

飛行機の中で、とっくに締め切りの過ぎた「実験室宇宙物理」の解説記事（日本物理学会誌掲載）を書き始め、機中はほとんど寝れず（いつものことですが）。SF空港からBARTでダウンタウンの最終駅で降りて目の前のHyatt Regencyの8階に落ち着きました。ここは大阪大学SF教育センター：<http://www.osaka-u-sf.org/>の松山さんが紹介してくれました。センターから歩いて15分程度。

部屋についても原稿を書き続け、4時にセンターに出かけました。5時から豊中の一年生向けの国際テレビ講義に特別出演を急に頼まれる（豊中は朝一限目）。夜は7名でホテルの目の前の波止場ビルで「Happy Hours with Wine」で、歓迎して頂きました。シカゴの大阪市事務所所長の佐古さんも来てくださり、いろんな話題が飛び交いました。



ホテルに帰るとレーザー研での金曜の大きな動き。メールを書いては送りして、1時半に、2m四方はあるking bedに斜め向きに寝ました。ところが、朝5時には目が覚めた（寝る前のメールが良くなかった）。「エイッ」と起き上がり、シャワーをあびて、原稿を書き続ける。

今回、原稿の資料は何も持って来ていません。会員2万人の少しでも多くの人に読んで頂こうと思えば「正確性より、わかりやすさ、読みやすさ」です。私の頭にある程度の話しがちょうどいいのです。

書き疲れたので、散歩も兼ねて波止場のマーケットで「New York Steak Sandwich」を、対岸のパークレーの方を見ながら食べる。とても美味。その後、UC Berkeleyでの用事を済ませ、夕方、再度、センターを尋ねる。実は事前に久保井センター長に「高部先生による放談会」を頼まれていた。4時から2時間、10名弱の参加で諸々の議論。SFの日本領事館の副領事も来られ、彼がまた話題豊富で良くしゃべる。私は「放談」どころか「聞き役」でした。

この日は 12 時に寝たが、朝の 4 時に目が覚めた。それ以上眠れない。土曜日なので、再度、原稿執筆。疲れてはダウンタウンを歩き回り、ランチ食べたり、本を買ったり。土曜日で 10 ページまで書き上げた。

今日はゆっくり寝ようと 8 時に寝たが、なんと、1 時に目が覚めて眠れない。起きてシャワーを浴び、メールを見ようとしたがサーバーにつながらない。「そういえば停電のニュースが流れていたな」と確認し、了解。



書きたいメールを書くだけで、どんどん貯めていく（次のホテルから送る予定）。同時に、原稿も第 5 節へ。9 時半頃に第 6 節のまとめも含めて書き上げる。文章だけで 15 ページ。すばらしい。当然、文章チェックや図や参考文献などの作業は残ってはいるが、これで一安心。

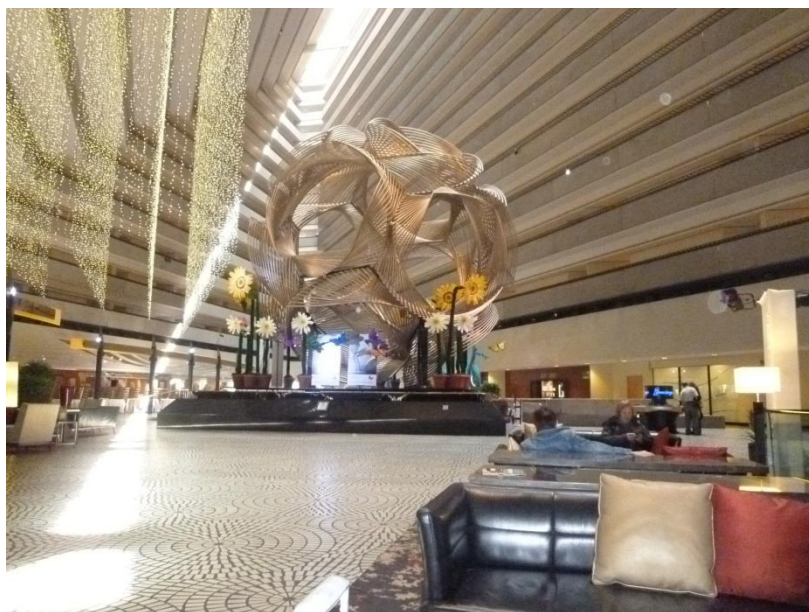
作家が原稿の締め切りが近づくとホテルで缶詰になる話しを良く聞くが、それがいかに有効か体験できた。（ここで、11 時 45 分。チェックアウトします。日本は真夜中の 3 時 45 分）。

ロビーです。吹き抜けのロビーに大きさが 10m はある竹細工を思わせる芸術品が、天井からの光に輝いています。昨年、More-san に連れてきてもらった時の印象がはっきりしている。

どうも私にはアメリカでの生活が合うようです。自由な雰囲気。多様性。人は人、自分は自分。日本の窮屈な「村社会」からしばし抜け出して命の洗濯でしょうか。久保井先生がセンター長をやめになるときは是非、立候補しようと考えています。

では。

高部



PS: 「Country of Freedom」を象徴するような光景を土曜日、ホテル近くで見ました。団体で写真の様に、サイクリングを SF ダウンタウンで楽しむ一段。これもアメリカという「Give me freedom or give me death」の国の一面です。



June 15, 2012

## The World is Narrow - Episode I & II - in USA

皆様

先週木曜、San Francisco(SF)に来て、阪大 SF センターで何かの話しの時「世界は狭いですよ。私の 10 年前の旅行記に"The World is Narrow"という副題のパリ滞在記があります」と話した。その旅行記は

<http://homepage2.nifty.com/AkiTakabe/kaigaiinshouki/kaigaiinshouki.html>

で、PDF をダウンロード出来る。この記事は上記 URL の 2001 年の下から 2 番目にある。

さて、今回、リバモア研で昨年採択した「NIF による基礎科学」の 8 課題の現状報告のヒアリングを行った。その際に、「NIF-ARC を用いた相対論的電子陽電子プラズマ生成」で採択されている責任者 Hui Chen と会議終了後、レーザー研の LFEX 利用など含めた話しをした。そのとき、今度は彼女が「The World is Small」と発言。

彼女と技術的な話を 30 分くらいして、その後、雑談していたら：

Hui: 私が阪大の LFEX でも実験することは一番上のボスの Goldstein も賛成してくれて、支援すると言っている。

Aki: Goldstein て、Bill のことか？

Hui: そうよ。Bill Goldstein が私の一番上のボス。

Aki: Bill とは友達なんだ。2009 年 7 月に中国の敦煌で国際会議した際、わざわざ来てくれた。俺は Bill は H-Bomb guy と長い間思っていたんだが、敦煌で色々話して、Bill が心優しい、科学を愛する研究者だと知り、友達になったんだ。今度会ったら、お前の研究活動を支援するように頼んでおくれよ。

Hui: それは偶然ね。嬉しいわ。ところで、Aki。貴方のホテルには husband が車で送るから。

Aki: ありがたい。(そこへ、彼が来る)。何、Bob Heeter。お前が亭主か？

Hui: 別に隠していた訳じゃないのよ。今日は私が遅くまで実験、主人が二人の子供の面倒を見る。子供達はホテルの近くで遊んでいるから、だから、ついでなの。

Aki: Bob、光電離プラズマでは藤岡との共同提案は去年は準備不足だったよな。これからも続けるよな。藤岡は余りコンタクトしてないようだな。あいつは七面八尾の忙しいやつなんだ。帰ったらお前とのコンタクトを維持しろと伝えるよ。

Bob: 了解。もちろん、共同研究を続けたいと思っている。

Aki: ところで、Hui はロンドンの Imperial College で学位を取ったんだよな。どんなテーマ研究していたの。

Hui: Z-pinch の研究。指導教官が Malcom Hains だったから。

Aki: 何、あの Malcom がお前の先生か。Malcom は俺の知り合いだ。会うたびにジョークの言い合いだ。彼の笑い方が面白い。実は、25 年ほど前、奥さんと一緒にレーザー研に 3 ヶ月滞在した。当時の所長の命令で、「Hains 教授は VIP だから、何事もお前が手伝いなさい」と命じられた。俺は彼の召使いだ。いつも「Your Majesty, Prof. Hains」と冗談半分に彼に言っていた。体期間中毎日、10:30 のティータイム、12:00 の昼食、3:00 のコーヒータイムとイギリス文化を押しつけられた 3 ヶ月だった。仕事盛りに、ストレスがたまってきたよ。でも思い起こすと、この年になり「あれはいい習慣だ」と思ったりしている。

Hui: えー、友達なの。「The World is Small」だね。

Aki: その通りさ。今度 Malcom に会ったら、よろしく伝えてくれ。

(帰りの車の中で)

Aki: 最近、David, Feilu 達と光電離プラズマの理論と数値計算のレビュー論文を書き終えたところなんだ。余り知られていないテーマだからレビューが必要と前から話していたんだ。

Bob: 可能なら是非ほしいね。実は俺は Princeton 大で学位を取ったが、指導教官がお前と同じ委員の Nat Fisch なんだ。

Aki: えー、あいつが。でもあいつ、専門はプラズマなどの非線型物理だろ。

Bob: そうなんだ。昨日もポスターで Nat に詳しく説明したが、彼にはまだ、そのおもしろみが良く理解できないらしい。レビュー論文書いたなら、勉強し直して、Nat を納得させてみたい。送ってくれ。

Aki: 了解。

以上。

高部

June 17, 2012

## The World is Narrow - Episode III - in US885 Flight

SF のみなさん

金曜に帰宅して、夜 8 時に寝て、先ほど朝の 7 時過ぎに目が覚めました。気分爽快、頭もさえる。明江さんのメールを頂き、その勢いでエピソード III を書こうとしています。

SFO で UA885 便に搭乗しました。二人がけで横が米国人風の若者（後で 40 才とわかる）。私は長旅の時は、飛行機が飛び始める前に声をかけて「長旅、隣同士、よろしく」と挨拶するのが常です。10 時間も横にいるのに「むっつり」は耐え難い。すぐ声を掛けるのは、飛行機も飛び立ち隣の人が何か仕事など始めると挨拶の機会を失うからです。この方法は成功率 90% で、相手が大阪のおばちゃんでも「こちらこそよろしく」と返事が来ます。(10% の失敗はだいたい中年のおじさん。仕事疲れか、会話が途切れる)

芸能ニュースから哲学までこなせる雑学博士ですので何を話しても楽しい。

今回の彼、話してびっくり。彼は大学院で日本に来て東大の工学部で学位を取得。専門は環境工学。日本に住んで 15 年。横浜出身の日本人の奥さんとの間には 9 才、5 才の子供がいる。「仕事は？」と聞くと、滋賀県の職員で琵琶湖の汚染調査。特に微量の毒性 POPs を代表とする汚染の微量分析などが仕事。名刺には「国際湖沼環境委員会・研究員・工学博士」と書いている。

住所は滋賀県草津市。仕事の具体的内容を聞くに着け驚いた。「なに——。貴方の専門はまさに私の息子の専門と一緒にじゃないか。息子は琵琶湖、淀川、日本の河川の POPs の実態調査と中国清華大学との共同研究で深圳（しんせん）市に長期滞在し、中国の大学院生と河川・淡水湖の POPs 調査をしたんだ。話が合いそうだな。びっくりだ」。彼は息子の指導教官を知っていた。良く付き合うのは若手の清水先生とのこと。

「たぶん学会かなにかですでに会ったこと有るだろうな。帰国したら息子に話して、貴方にコンタクトするように伝えるよ。よろしく頼む」と。

彼は、やはり大学での研究がしたく、最近、Stanford 大に応募し、書類審査が合格し、日本時間朝 3 時に指定された Skype 面接に臨み、見事合格した。ただし、ポストは任期付き准教授。「テニアでないのが不満だが、受けようと思っている」。そこで、今回は別件もあり、Stanford で家を探したりした。しかし、あまりにも高いので悩み始めた。私が持っていた USA Today を示し「Las Vegas の家の価格下落が止まらない」という記事の一面を見せた。それを示して、「安くなったんじゃないの」と彼に言う。「これはベガス。Stanford を含む西海岸の価格は下がっていない。環境も良く人気があるからね」と。

そんなこんなで長旅も色々な話題で気が紛れる。私は名刺を切らしているので、PC に「君のアドです入力してよ。私の電子版名刺を着けて送るから」とタイプしてもらう。

私は持っているが、使いこなしていない「iPad」の利用の仕方を彼に色々教えてもらう。彼が電子ブックで色々な記事を拡大したり、きれいな写真を出したりして読んでいるので「これは使えるな。次から論文の PDF などは全部 iPad に入れていこう」と思ったからである。丁寧に、色々な使い方を教えてくれた。

機中会話はほとんど英語。最後の方で「君は 15 年も住んでいるから日本語得意でしょ。家では何語？」と聞くと「僕は英語でしゃべり、女房子供は日本語で質問、返事してくる」そう。そこで「じゃ、今から日本語に切り替えよう」と日本語での会話になった。彼はすんなり日本語に変わったが、私の方が返事が英語になったりで、二人で大笑い。「日本語の方が難しいね」と私。

そんなで再会を約し、関空で別れた。

Episode-III

The End

高部